

裁判での科学鑑定の効果的な利用に関する実証的研究

研究者 鈴木 舞 (東京大学)

➤ 研究の概要 (助成開始時)

科学の果たす役割が我々の社会で重要になる中で、日々の安全や秩序維持に貢献する裁判でも、より効率的、客観的な裁定のために、科学的知識に基づいた資料の科学鑑定が行われ、鑑定結果が利用されている。しかし、その専門性が非常に高かったり、鑑定結果が分かりにくかったりするために、科学鑑定の内容を法曹三者や陪審員・裁判員となる一般の人々が理解することが難しく、科学鑑定の結果を裁判で有効に利用できない場合がある。

こうした科学鑑定の抱える課題に、具体的な解決策を提示することは、裁判がより効果的に機能し我々が安心して生活していくために急務であるにもかかわらず、これまでほとんどなされてこなかった。

本研究では、ニュージーランドで科学鑑定に関する人々の理解を促進させるために取られている方策に着目する。そしてその方法を、科学が関わる活動の現場に実際に赴き、人々の活動や認識の有り様を観察や聞き取り調査、文献調査により明らかにする科学人類学の手法を用いて詳細に分析する。それにより、裁判での科学鑑定の効果的な利用のために、何が必要なのかを実証的に明らかにすることを目的とする。

➤ 選考委員会からのコメント

刑事司法は、日々進化している。証拠の重点が、徐々に科学的鑑定に移行する中でも、DNAが最も重要なものといってよい。科学的証拠の制度や国民の評価・理解を高める視点で研究する人が増えることは非常に重要なことである。